



岡山大学理学部

同窓会会報

School of Science Okayama University Alumni Association

2022.10
第11号

改革が進む大学、時代が求める新たな学びを母校岡大で

理学部同窓会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。会報9、10号に続き、本執筆時にもコロナ（第7波）禍にありますが、社会活動の早期正常化を目指し、本学では全国規模の講演会等も対面で行われる状況にあります。

世界的にも多くの国々がコロナ禍にありますが、社会・経済活動の活性化は喫緊の課題であります。国内では新しい成長分野のDX、RX、AI、脱炭素やデジタルなどの推進に必要な技術者不足が顕在化し、企業ひいては国の存亡にかかわる問題として懸念されています。企業では、従来のリカレント（Recurrent:社会に出てスキルや知識を学び直す）に加え、リスキリング（Reskilling:社会で必要なスキルや知識を新たに身につける）制度を導入し、3年間の休職を認める企業もあります。幸い本学大学院には社会人のための博士後期課程が設置されており、休職せずともリカレント、リスキリングが可能です。コロナ禍で培ったオンライン教育のノウハウ・設備を活用した効果的・効率的な教育が可能です。

成長分野の早期人材育成の観点から、最近大学、理工系学部・大学院等の拡充や新設が進められています。同窓生の方々におかれましては、ご自身のリカレント、リスキリングを岡山大学で是非とも進めていただき、より豊かな人生を歩んでいただきたいと願いたします。これは、岡山大学にとりましても、大変名誉なことであります。最後になりましたが、同窓会員の皆様方には今後とも温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申しあげ、挨拶に代えさせていただきます。



理学部玄関にて

岡山大学理学部同窓会 会長

(昭和43年大学院修士課程修了)

本水 昌二

岡山大学理学部同窓会会員の皆様へ

皆様いかがお過ごしでしょうか。同窓生の皆様には、日ごろより岡山大学理学部の教育・研究活動へのご支援を賜っておりますこと、誠に感謝いたしております。

一昨年からの新型コロナウイルス感染症により、本学の教育・研究も大きく影響を受けておりましたが、現在では、感染防止対策を整えて従来の教育と研究のアクティビティを取り戻してきております。対面授業では、顔を合わせコミュニケーションの機会を持ってお互いを高めていくことが、大学での学びの重要な要素であることをあらためて実感している次第です。一方、オンラインの教育方法の良い所を併用し、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した新時代の教育へ進化しつつあります。

また、理学部の建物整備では、昨春に竣工した5階建ての異分野基礎科学研究所棟に続き、今春に改修が完了した新しい2号館では1階に生物・物理の実験室と附属工場、2階から4階に数学の研究室が整備されました。このような中で岡山大学理学部の研究と教育を進めておりますが、その活動の様子についてはホームページで情報発信しておりますので時折ご覧いただければと思います。

最後になりましたが、皆様方がますますご活躍されますとともに、理学部同窓会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



岡山大学理学部長

市岡 優典

▼活動報告

2022.9.27～9.30 理事会（メール会議）開催

2018.7.28

岡山大学 Alumni（全学同窓会）

2014.11.20

理事会開催

2022.7.23 理学部同窓会関東支部総会開催

2018.7.25

東京支部、各学部支部と合同総会・交流会

2014.10.18

理学部同窓会を開催

2021.10.8～10.12 理事会（メール会議）開催

2018.7.25

理事会開催

2014.8.21

理事会開催

2021.9.29～10.4 理事会（メール会議）開催

2018.4.1

理学部同窓会関東支部設立

2013.10.19

理学部同窓会を開催

2020.8.7～8.17 理事会（メール会議）開催

2017.10.21

理学部同窓会を開催

2013.9.4

理事会開催

2019.10.26 理学部同窓会を開催

2017.7.26

理事会開催

2013.3.6

理事会開催

2019.9.4 理事会開催

2016.10.22

理学部同窓会を開催

2012.10.20

設立記念総会並びに懇親会開催

2019.7.27 理学部同窓会関東支部総会を開催

2016.9.7

理事会開催

2012.7.4

理事会開催

2019.5.22 理学部同窓会関東支部交流会を開催

2015.10.17

理学部同窓会を開催

2012.5.25

ホームページを公開

2018.10.20 理学部同窓会を開催

2015.9.2

理事会開催

2012.3.5

岡山大学理学部同窓会設立

岡山大学理学部同窓会役員名簿

令和4年4月1日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水昌二	名誉教授
副会長	市岡優典	理学部長（教授）
理事	寺井直樹	数学科長（教授）
理事	池畑秀一	名誉教授
理事	鄭国慶	物理学科長（教授）
理事	味野道信	グローバル人材育成院教授
理事	門田功	化学科長（教授）
理事	岡本秀毅	化学科准教授
理事	川本平山	全学同窓会理事（化学科）
理事	高橋卓	生物学科長（教授）
理事	隈元崇	地球科学科長（教授）
理事	野坂俊夫	地球科学科准教授
理事	横谷尚睦	附属界面科学研究施設長
監事	中越英樹	副学部長（教授）
監事	金田隆	副学部長（教授）

令和3年度 岡山大学理学部同窓会会計報告

(単位：円)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
1 前年度繰越	3,048,818	1 事業費	459,200
(1) 普通預金 3,034,237		(1) 理学部同窓会実施事業 250,000	
(2) 小口現金 14,581		会報製作費 1,000部 96,000	
		会報送料 1,000通 110,000	
		封筒 2,000枚 44,000	
2 会費	664,290	(2) 全学交流行事支援事業 0	
(1) R3年度入学生 590,000		@5,000×118名 590,000	
@5,000×118名 590,000		(コロナ禍で実施できず)	
(2) 卒業生（振込） 74,290		(3) 就職活動支援事業 9,200	
@5,000×11名 55,000		謝金(教養教育科目「自然科学特論」)	
@5,000×4名 20,000		9,000	
		謝金振込手数 200	
振込手数料 △710			
3 預金利息	28	(4) 同窓生進学支援事業 200,000	
4月1日 13		研究奨励金(博士後期)2名 200,000	
10月1日 15			
		2 事務費	0
		3 繰越金	3,253,936
		(1) 普通預金 3,239,355	
		(2) 小口現金 14,581	
合計	3,713,136	合計	3,713,136

■編集後記 デジタル化時代の同窓会 —メールアドレスを登録しよう—

岡山大学 Alumni（全学同窓会）は「岡山大学 Alumni（全学同窓会）活動におけるデジタル化推進の方針」のもとに ①オンライン会議の推進 ② Alumni による電子メールアドレスの収集の促進 ③広報物等の電子化に取り組んでいます。これにより会員宛に Alumni 会報やメールマガジン、ホームページの更新情報等を直接発信し、印刷・発送費の節減、事務作業の軽減等を図るものです。登録方法は以下のとおり。①岡山大学ホームページ ②岡山大学 Alumni（全学同窓会）ホームページ ③ログイン会員専用 ④ログイン・会員登録はこちらをクリック。ここで記入・登録する。

岡山大学 Alumni（全学同窓会）理事 川本平山

お問い合わせ先

岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>OKAYAMA
UNIVERSITY

【会則】平成24年3月5日 制定

平成30年7月25日 改正

(名称) 本会は、岡山大学理学部同窓会（以下、「本会」という。）と称する。
第1条 (目的) 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。
第2条

(事業) 第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。
一 総会の開催
二 会報の発行
三 会員名簿の管理
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成) 第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会) 第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業者に別に組織する同窓会（以下「学科同窓会」という。）と連携協力を得て、本会の事業を行う。
(会員) 第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。
一 正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
二 学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生
学生会員は、卒業することにより正会員となる。
三 特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務（室）長として在職した、又は在職する者
その他、理事会において入会を認めたる者
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員) 第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員) 第7条 本会に、次の役員をおく。
一 会長 1名
二 副会長 1名
三 理事 若干名
四 監事 2名
第8条 役員の仕事は次のとおり定める。
一 会長は、会務を統括する。
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
五 理事は、本会の目的達成に必要な役務（総務・会計・広報・名簿管理等）を分担する。
六 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。
四 監事は、理事会で選出する。
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議) 第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。
2 理事会の議長は会長または副会長があたう。
3 理事会は、年1回以上開議し、次の各号に掲げる事項を審議する。
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。
二 会務及び業務報告に関する事項。
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。
四 その他、役員会において必要と認めたる事項。
4 理事会は役員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。
第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(支部の地域) 第14条 本会の目的を達成するため、理事会の承認を得て、地域ごとに支部を置くことができる。

(支部組織) 第15条 支部は、その地域内の会員をもって組織する。
(支部地域変更) 第16条 支部は、理事会の承認を得て、地域を変更することができる。
(支部の役員) 第17条 支部に役員として、代表幹事1人及び幹事若干人を置く。
2 支部の役員は、当該支部の会員の中から選出する。
3 代表幹事は、支部を代表し、支部の会務を執行する。
4 幹事は、代表幹事を補佐する。
(支部の会則) 第18条 各支部は、当該支部に関する会則を定めることができる。
2 支部がその会則を定めた場合は、理事会に報告するものとする。
(支部幹事会) 第19条 各支部にそれぞれ支部幹事会を置き、代表幹事及び幹事をもって構成する。
2 支部幹事会は、必要に応じ、代表幹事が招集し、代表幹事がその議長となる。
3 支部幹事会は、支部の運営に関する事項を協議する。

(支部の経費) 第20条 支部の経費は、当該支部所属会員の負担とする。
2 本会は、支部に補助金を交付することができる。
(会計) 第21条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。
第22条 本会の会費を次のとおり定める。
一 正会員は、入会金（終身会費）5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。
二 学生会員は、入会金（終身会費）5,000円を入学時に納付するものとする。
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。
四 会費の納付方法については、別に定める。

第23条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。
第24条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。
第25条 監事は、毎年本会の会計を監査する。
第26条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時開示しなければならない。
第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
(補則) 第28条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則) 1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。
2 この会則は、平成24年3月卒業者が適用する。
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。
(附則) 1 この会則は、平成30年7月25日から施行し、平成30年4月1日から適用する。
岡山大学理学部同窓会 別表

名称	地域名	設立年月日	代表者	連絡先
岡山大学理学部同窓会	本部	平成24年3月5日	会長 本水昌二	理学部事務局 086-251-7764
岡山大学理学部同窓会 関東支部	関東地区 (東京、千葉、神奈川、埼玉、 栃木、群馬、及びその周辺)	平成30年4月1日	代表幹事 米森重明	米森重明 090-5330-2391



各学科近況報告

数学科 Department of Mathematics

数学科では令和4年3月に22名の学部生が卒業しました。また、今年度は新入生として20名、3年次編入学生として7名を迎え入れました。

令和3年9月に表現論・組合せ論が専門の滝間太基特任助教が退職され、民間企業に転出され、令和4年2月には偏微分方程式論が専門の寺本有花特任助教が愛媛大学へ転出されました。更に、令和4年4月には偏微分方程式論が専門の物部治徳特任准教授が大阪公立大学へ転出されました。また、令和4年5月には代数幾何学・可換環論が専門の柴田康介研究助教が着任されました。

令和4年5月には2号館の改修工事が終わり、数学科教員、大学院生は新2号館に引っ越ししました。教室、ゼミ室も新しくなり、気分一新 教育・研究に一層励んでいきたいと思っております。



数学科長 寺井 直樹

VOICE
卒業生からの声

私は大阪大学大学院情報科学研究科に進学して、回数付き可換代数のGorenstein性およびその一般化について研究しています。大学院からは研究に関係のある文献を自力で探して読む必要があったり、主張が示せず研究が上手くいかなかったり大変です。しかし、それらを乗り越えて自分で予想した主張を証明できたときの感動は大きいです。先生方の手厚いご指導のおかげで、最近論文を1本書くことができました。これからは勉強と研究を頑張ります。



宮下 空
(2022年3月 理学部数学科卒業)

物理学科 Department of Physics

人事では、量子物理学研究室（笠原研究室）に木原工准教授が令和4年1月1日に着任されました。強磁場の発生や強磁場下の物性測定が専門です。また、同日に日野陽太特別契約職員(助教)も着任され、岡山大学のRECTORプログラムに従事されます。令和4年3月31日に一般教育で長年にわたって活躍した松島康講師が定年退職されました。研究では、昨年来も多くの教員や大学院生が輝かしい成果を上げました。侯野和明助教が超伝導に関する研究業績で第1回金光奨励賞を受賞されました。博士後期課程の小松国幹さんが宇宙の始まりとされる「ビッグバン」の前に発生した時空のゆがみを観測するのに不可欠な装置を開発した業績で2021年度仁科賞を受賞されました。教育では、松島康講師が令和3年度理学部教育貢献賞を受賞されました。2号館の改修が済み、低温物理学研究室と工作センターが元の場所に戻り、活動を開始しました。また、コロナで大きな影響を受けた講義は昨年の後半からほぼすべての科目が対面実施に復帰し、活気ある教室の風景が復活しました。



物理学科長 鄭 国慶

VOICE
卒業生からの声

私は自然科学研究科の修士課程を卒業後、同じく岡山大学の博士課程へと進学しました。修士課程と同じく宇宙物理学研究室に所属し、LiteBIRD衛星計画に従事しています。研究では衛星観測をシミュレートして、衛星計画が目的とする初期宇宙の指数関数的膨張の痕跡が観測できるかどうかを検証しています。OUフェロウシップという岡山大学の研究助成プログラムにも採択していただき、これから更に研究に励み成果をあげていきたいと考えています。



長野 佑哉
(2020年3月 理学部物理学科卒業)

地球科学科 Department of Earth Sciences

地球科学科には、4月に研究助教として、高圧実験により地球内部の水の振る舞いを明らかにすることが研究テーマの櫻井 萌先生が着任されました。研究活動を通じて学科の活性化への貢献に期待するところ大です。また、今年度も新入生25名、3年次編入生3名の学生さんを迎えることができました。コロナ禍3年目で、残念ながら新入生合宿研修はまだ再開できておりませんが、大学の活動制限レベルに従って対面授業は増えていきます。学科内でのスタッフと学生、また学生間の交流の機会も増やして、学科の教育・研究の環境が良い方向へ回るようスタッフ一同努力しております。最後に、同窓会のみならず皆様のご活躍とご健康を祈念しつつ、今後とも地球科学科へのご支援をいただけますようお願い申し上げます。



地球科学科長 隈元 崇

VOICE
卒業生からの声

私は、2012年に理学部地球科学科に入学し、博士課程まで計9年間お世話になりました。学生時代は、日本列島周辺の海底地すべりの分布特性について研究しました。現在は、原子力規制庁で、地震、津波、火山といった自然現象が原子力発電所に及ぼす影響を対象とする部門の研究職員として地震を扱うチームに所属し、研究やそれに付随する業務を行っています。業務では地震分野の専門家として意見を求められることもあります。責任を持った回答ができるように、まだまだ未熟な自分は日々勉強中です。周りの上司・先輩の丁寧な指導の下、吸収しなければいけないことが山積みですが、楽しく業務と向き合う毎日です。



森木 ひかる
(2016年3月 理学部地球科学科卒業)

Faculty of Science Message from OB

西井 裕一
(2021年3月 理学部生物学科卒業)

私は2019年に山口大学から3年次編入で理学部生物学科に進級し、現在は大学院自然科学研究科生物科学専攻の修士院生として、日々、研究に従事しています。編入学した最初の頃は、不足していた単位を取り返すのに相当時間を取られ、卒業課題として希望していた植物の発生の研究に取り組むようになってからは、新型コロナウイルスの影響で研究室の出入りが制限されたりしましたが、現在はようやく自分のペースで実験予定を組み立て、進められるようになりました。しかし、研究室に配属された後輩の学生に実験技術を教える機会が増え、オンラインの学会発表を経験して、自分の知識やプレゼンの技術の不熟さも痛感しています。学ぶべきことがまだまだたくさんあるという思いと、突然変異の原因遺伝子を突き止める遺伝学の研究の面白さを実感して、さらに研究を継続、発展させたいと強く思うようになり、来年度からは博士後期課程に進学することを決意しました。後期課程にもなると同期の話し相手も減り、実りある研究成果が出せるのだろうかという不安もあります。自分のモチベーションを信じて研究に励みたいと思っています。

化学科 Department of Chemistry

昨年度の事になりますが、異分野基礎科学研究科の建設が完了し、研究所に所属する皆さんがそれぞれ移動して研究活動をスタートされています。引き続き2号館の改修工事のため、1号館の空いたスペースに2号館の皆さんが研究室を移動し、慌ただしかった引っ越しも一段落しました。人事関係では、3月末で石田祐之教授が定年退職されました。また、後藤和馬准教授は10月1日付で北陸先端科学技術大学院大学に教授としてご栄転されました。一方で、物理化学分野に山方啓教授が、有機化学分野に田中健太助教がそれぞれ着任され、新しい分野の研究をスタートされています。コロナ禍の影響は徐々に小さくなってきており、行動制限もかなり緩和されました。現時点ではほとんどの講義が対面で実施されるようになっており、留学生の来日や海外への渡航も、条件付きではありますが可能になってきています。しかしながら完全に以前の生活に戻ったとはいえ、感染対策を十分に行いながら教育・研究を進めているところです。同窓会の皆様におかれましても、ご自愛の上、引き続きご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。




化学科長 門田 功



引っ越し作業が完了し、既に研究が進められている異分野基礎科学研究科の実験室です。有機超伝導体などの試料作成に必要な環境が整備されています。(久保園研究室)

生物学科 Department of Biology

本年4月に、環境および時間生物学の吉井大志先生が昨年退職された富岡憲治先生の後任として、構造生物学の菅倫寛先生（異分野基礎研所属）が今年3月に退職された高橋裕一郎先生の後任として、それぞれ教授に昇任されました。学部生は令和3年度に28名が卒業し、今年度は32名の新入生と5名の3年次編入生が加わってスタートしました。オンライン講義の割合はかなり減少し、顔を合わせた授業や学生実習が復活して、気のせいか学生に活気が取り戻されつつあるように感じられます。5月には新入生研修を兼ねて、半田山の野鳥観察会を行いました。12月にはこれまでの後期入試に代わって、学校推薦型選抜が始まります。一方、大学院も来年度から大きく再編される予定です。そうした中、各教員は最先端の研究に邁進しながら、教育にも注力して学科の活性化、発展に日々努める所存です。ご支援、よろしくお願いたします。




生物学科長 高橋 卓

附属臨海実験所 Marine Laboratory

写真の説明: カミクラゲ(刺胞動物)は春先に実験所周辺によく現れます。光感覚がよく発達した美しい動物ですが、残念なことに臨海実習が始まる頃にはシーズンを終えてしまっています。

附属臨海実験所での教育・研究は今年度はかなり旧態に復し、臨海実習も全てなんとか無事に行うことができました。今年は全体に天候にも恵まれ、従来より野外での活動を増やすことで、充実した内容になりました。参加学生は入学以来コロナで活動が制限されていたこともあり、実習活動、共同生活と新鮮なよさを感じていたようです。研究活動についても、実験所での日常の研究、学外との共同研究活動ともに平常の状態に徐々に近づいてきました。



所長 坂本 竜哉

附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science

異なる物質同士が接触する境界面を界面と呼びます。界面における原子、分子の配列は物質内部(バルク)とは異なっているため、界面ではバルクとは異なる性質が発現します。界面に特有な性質の探索やその特性発現機構の解明の研究は物質科学の最前線の一つです。附属界面科学研究施設では、人間の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員が連携し、界面を利用した新たなデバイス開発や超伝導(ある種の物質の電気抵抗が、その物質に特有な温度(超伝導転移温度)以下でゼロになる現象)などの興味深い性質を示す新物質開発とその特性の機構解明を目指し研究を進めています。また、広島大学放射光科学研究センターに設置された岡山大学ビームラインを活用し教育研究も行っていきます。昨年、研究場所を理学部2号館から新設された異分野基礎科学研究棟へ移しました。ご興味をお持ちの方々の訪問を歓迎します。



施設長 横谷 尚陸

異分野基礎科学研究科 Research Institute for Interdisciplinary Science

異分野基礎科学研究科棟ができてから1年あまりが過ぎました。この間、基礎研のほとんどの研究室は新しい建物に移り、ほぼ毎月1回の研究所セミナーを開催し、異分野融合研究を展開しています。光合成・構造生物学研究コアの高橋裕一郎教授が2022年3月に定年退官し、菅 倫寛准教授が4月から教授に昇任しました。同コアの沈建仁教授は6月、新型コロナで2年間延期になっていたスウェーデンロイヤルアカデミーが開催するグレゴリー・アミノフ賞授賞式に出席し、スウェーデン国王から賞状とメダルを受け取りました。また、菅 倫寛教授は7月にニュージーランドで開催された国際光合成学会で、日本人としては初のThe Robin Hill 賞を受賞しました。コロナの影響がまだ残っていますが、基礎研の所員はそれを克服し、研究の推進に全力をあげる所存です。



所長 沈 建仁